

# 杉並第二小学校 改築基本設計 中間まとめ(案)

杉並第二小学校の現校舎は、昭和35年に校舎を建設後、増築を重ねた学校で、最も古い校舎で築60年近くとなり、校舎の老朽化による改築時期のため、平成30年度に策定された区の実行計画に基づいて、改築することになりました。

平成31年4月から、学校関係者、地域関係者、学識経験者等で構成する「杉並第二小学校改築検討懇談会」を開催し、目指す学校像や新校舎の配置計画等を含む改築基本設計の策定に向けて取り組んでまいりました。この度、これまでの検討状況を踏まえて、中間のまとめを行いました。

今後、さらに保護者や地域の方々等からのご意見をうかがいながら、改築基本設計の策定に取り組んでまいります。

令和元年11月 杉並区教育委員会


# 目次

<b>【1】基礎的条件</b> .....	(1)改築に至る経緯.....	.....	3
	(2)敷地の概要.....	①用途地域・地区等.....	4
		②周辺環境.....	6
	(3)既存施設の概要.....	.....	8
	(4)通学区域.....	.....	9
<b>【2】計画条件</b> .....	児童数・学級数の推移と将来推計.....	.....	10
<b>【3】改築基本方針</b> .....	全体像.....	.....	11
<b>【4】施設整備計画</b> .....	(1)校舎配置(案)の検討.....	.....	12
	(2)敷地活用・建築計画の基本的考え方①.....	.....	13
	(3)校舎配置パターン.....	比較検討表.....	14
	(4)敷地活用・建築計画の基本的考え方②.....	.....	15
	(5)想定整備スケジュール(予定).....	.....	16
<b>【5】検討経過及び今後の進め方</b> ..	(1)校舎改築検討懇談会での検討経過.....	.....	17
	(2)今後の進め方(予定).....	.....	18

## 杉並第二小学校の状況

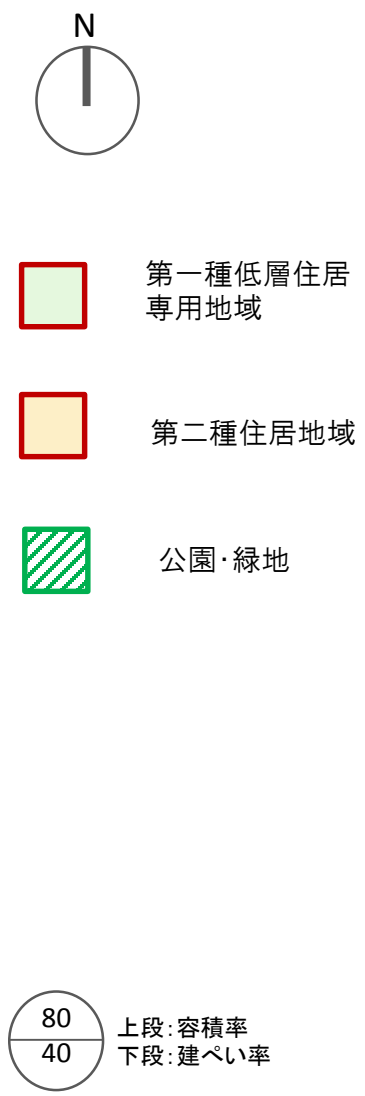
- 明治17年 杉並第二小学校 開校  
昭和35年 杉並第二小学校北校舎建設  
(昭和37年、同40年、同44年増築)  
昭和41年 体育館建設  
昭和53年 プール・教室棟建設

## 改築計画の具体化(区)

- 平成30年度 杉並区実行計画により改築事業の計画化
- 
- 平成31年度 杉並第二小学校改築検討懇談会開催・基本設計策定  
(令和元年度)

# 【1】基礎的条件 (2)敷地の概要 ①用途地域・地区等

## ■都市計画図



# 【1】基礎的条件 (2)敷地の概要 ①用途地域・地区等

## ■用途規制等

	杉並第二小学校	災害備蓄倉庫
面積	10,781m <sup>2</sup>	306.66m <sup>2</sup>
用途地域	第一種低層住居専用地域	第一種低層住居専用地域
指定建蔽率	40%	40%
指定容積率	80%	80%
防火地区	準防火地域	準防火地域
高さ限度	10m	10m
高度地区	第1種高度地区	第1種高度地区
日影規制	測定面1.5m、3h/2h	測定面1.5m、3h/2h
備考	建蔽率は角地緩和+10%あり 埋蔵文化財包蔵地区域	建蔽率は角地緩和+10%あり 埋蔵文化財包蔵地区域

## ■周辺環境(道路)



●西側道路(鎌倉街道)については、現況の道路境界線から、約1.75mの道路拡幅整備(※1)を行う必要があります。また、道路拡幅に加え敷地内に幅員2.0mの歩道状空地の整備(※2)を行う必要があります。

●南側道路(三年坂)については、4.0m以上を拡幅するための道路拡幅整備を行う(※3)。また、道路拡幅に加え、敷地内に幅員2.0mの歩道状空地の整備を行う必要があります。

●東側道路(緑地側道路)については、今後の計画(地盤・擁壁など)により、西側・南側と同様に歩道状空地の整備(※2)を行う場合があります。

※1「すぎなみの道づくり(道路)」に基づく主要生活道路の整備

※2「杉並区建築物の建築に係る住環境への配慮等に関する指導要綱」に基づく空地の整備

※3「建築基準法」、「都市計画法」に基づく道路の整備



■周辺環境(敷地内・周辺の高低差)



●運動場を基準(±0)とすると、西側道路が約1.8 m高く、東側道路は、約4.2m低くなっています。  
 ●敷地内にも高低差があります。



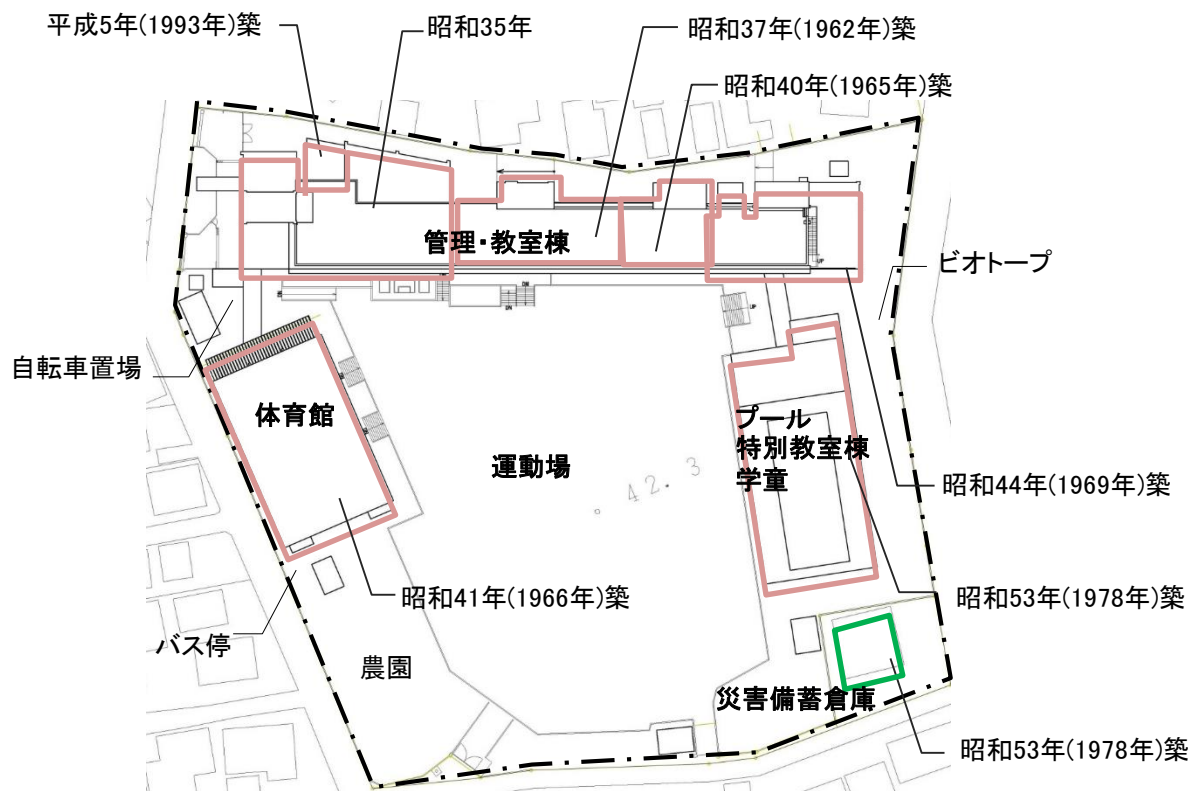
# 【1】基礎的条件 (3) 既存施設の概要

## ■ 杉並第二小学校

敷地面積	校舎面積	運動場面積	体育館面積
10,781m <sup>2</sup>	5,926m <sup>2</sup> (内 学童クラブ専用 面積288.52m <sup>2</sup> )	4,094m <sup>2</sup>	614m <sup>2</sup>

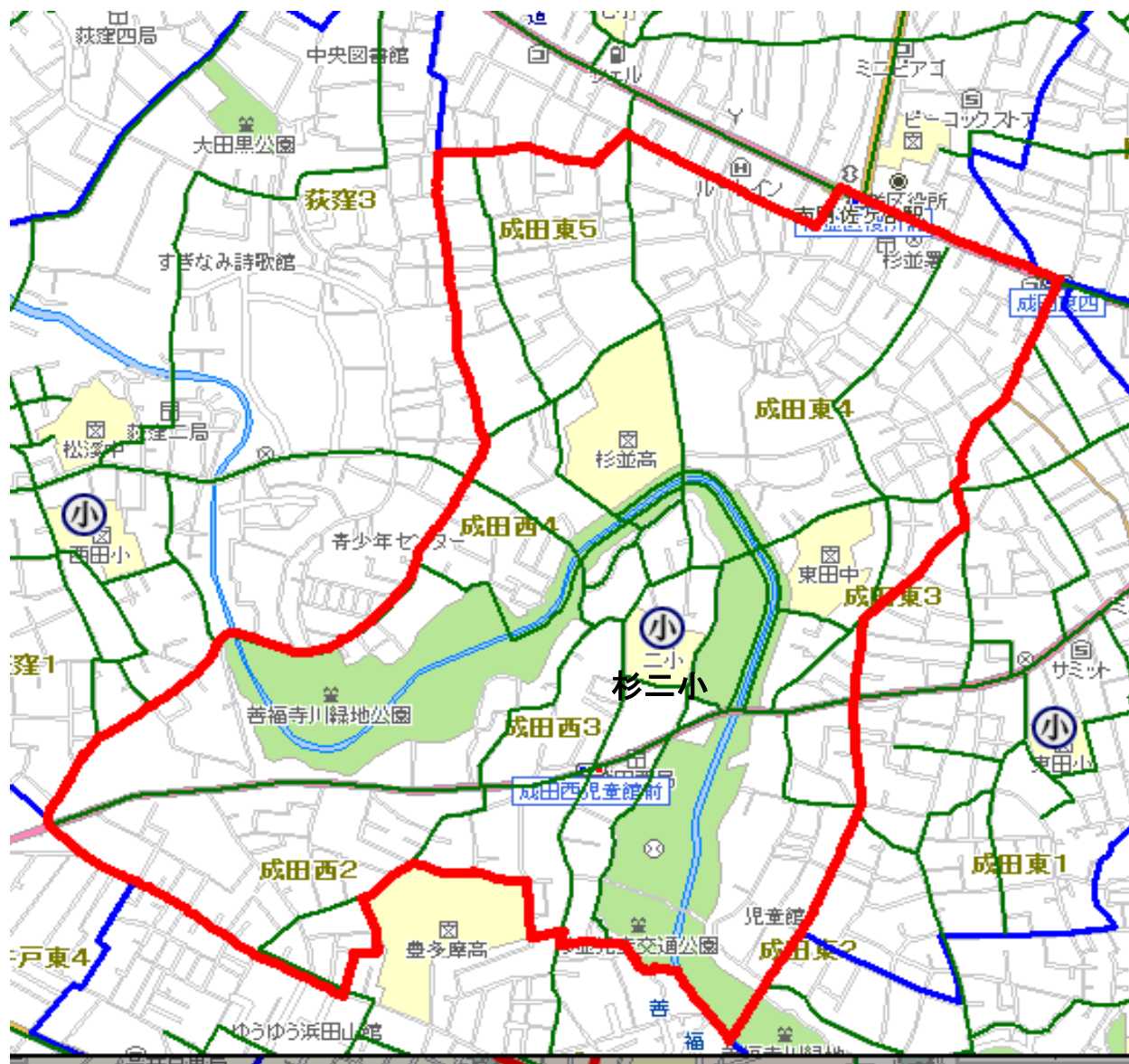
## ■ 成田西災害備蓄倉庫

敷地面積	倉庫面積
306.66m <sup>2</sup>	90m <sup>2</sup>





# 【1】基礎的条件 (4) 通学区域



学区域	
杉並第二小学校	成田東2丁目7番 (74号,75号), 10~18番,36~39番 成田東3丁目14~25番 成田東4丁目1~21番 ,34~39番 成田東5丁目1~11番, 23~33番,36~38番, 41番,42番 成田西1丁目22~30番 成田西2丁目7番 (5~25号),8~24番 成田西3丁目全域 成田西4丁目全域

## 【2】計画条件 児童数・学級数の推移と将来推計

- 児童数、学級数の将来推計を行い、改築校の規模を最大26学級と想定しました。それに対応するため、普通教室を24教室、少人数教室を3教室の合計27教室を設置します。

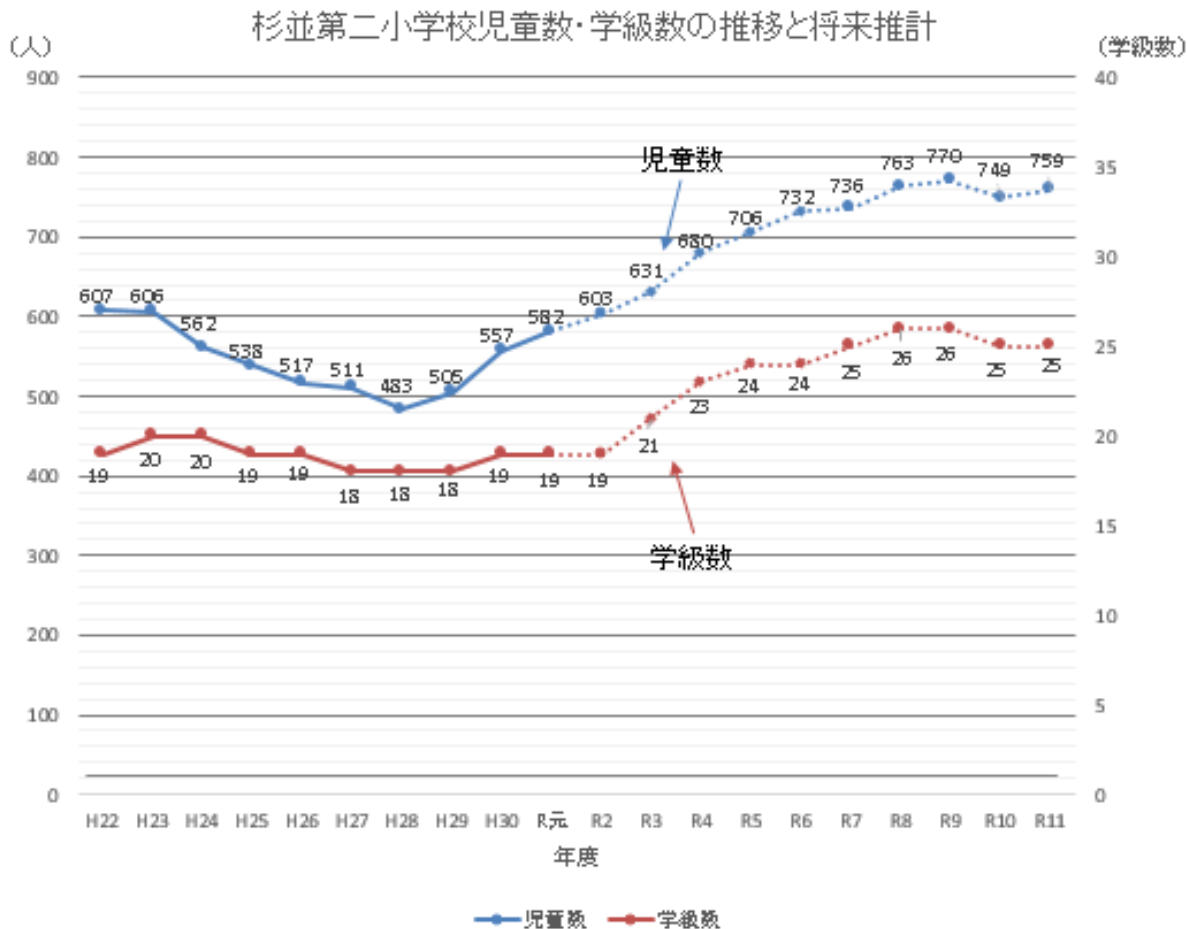


表 1

【参考】杉並区立学級編制基準

小学校	児童数
1学級	1～35
2学級	36～70
3学級	71～105

※ 令和元年度までは実数  
令和2年度以降は推計値

# 【3】改築基本方針 全体像

<スローガン>

<ビジョン>

< 目 標 >

< 取 組 >

皆で創る  
令和の未来を拓く  
杉二小

**【ビジョン1】**  
学びや遊びが楽しく、  
長く使い続けられる学校

目標Ⅰ.  
多様な学びの場を備え、  
質の高い学習環境を備  
えた学校づくり

取組 A 多様な学習形態に対応できるスペースの確保

取組 B ICT環境の充実

取組 C 子どもたちが元気に遊べ、進んで運動できる環境の整備

目標Ⅱ.  
将来にわたって使い続  
けられる柔軟で効率的  
な学校づくり

取組 D 将来の児童数や地域の施設ニーズの変化、新たな教育内容  
や教育方法等にも柔軟に対応できる施設計画

**【ビジョン2】**  
自然にあふれ、安全で  
居心地の良い学校

目標Ⅲ.  
善福寺川緑地等の良好  
な周辺環境と調和した  
学校づくり

取組 E エコスクールを基本とし、快適で温もりのある施設

取組 F 敷地の特性を活かしながら、周辺環境と調和した学校

目標Ⅳ.  
安全・安心で居心地の  
良い生活空間としての  
学校づくり

取組 G 安全対策を十分に講じ、児童が伸び伸び過ごせる配置

取組 H 地域安全性の向上を図り、安心して児童が通える学校

取組 I 地震や水害等の災害に対する安全性の確保

**【ビジョン3】**  
皆に愛され、大切にされ  
る学校

目標Ⅴ.  
杉二小の伝統と特色を  
継承し、地域とともに歩  
む公共空間として、地域  
の活動を支援する学校  
づくり

取組 J 学校と地域のつながりを重視した諸室の設置

取組 K 学童クラブの配置と小学生の放課後等居場所事業の実施

取組 L 地域開放の際のセキュリティに配慮した動線計画等

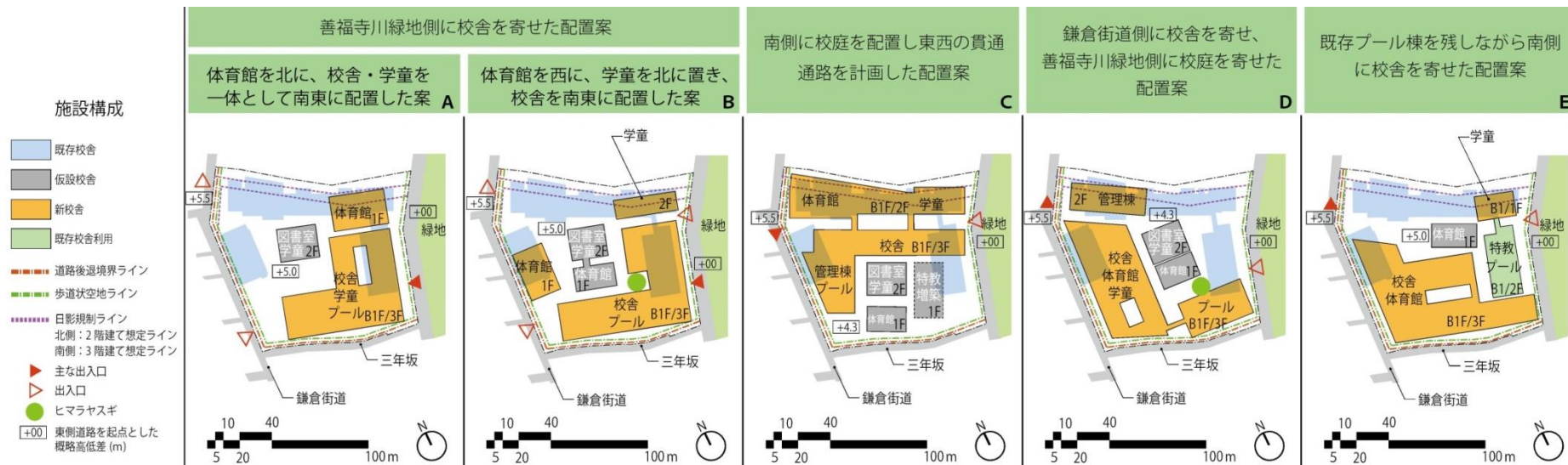
取組 M 多様な利用者に配慮した施設計画

目標Ⅵ.  
地域の防災拠点として  
の十分な機能を備えた  
施設整備

取組 N 成田西災害備蓄倉庫や広域避難場所である善福寺川緑地  
と隣接している環境を考慮し、関係機関と連携

取組 O 地域の防災拠点として必要な防災設備の整備

# 【4】施設整備計画(1)校舎配置(案)の検討



杉並第二小学校校舎改築基本方針を実現できる5案の配置案を、校舎環境、校庭環境、周辺環境、仮設工事環境等の観点から比較した資料を基に意見交換を行いました。

**(校舎改築検討懇談会委員からの主な意見)**

「高低差をいかしてほしい」「校庭の広さをできるだけ確保したい」「子どもたちがスムーズに動くことができる動線にしてほしい」など

校舎改築検討懇談会委員の意見を踏まえ、善福寺川緑地側に校舎を寄せて配置したA'案(類似しているAとBをまとめた案)、南側に校庭を配置し東西の貫通路を計画したC案、鎌倉街道側に校舎を寄せ、善福寺川緑地側に校庭を寄せて配置したD案の3案に絞り、主要諸室、動線、評価等を記載した資料を基に意見交換を行いました。

## 【4】施設整備計画 (2) 敷地活用・建築計画の基本的考え方①

- 杉並第二小学校の北校舎は昭和35年(築59年)の建設以降、増築を重ね、区内小中学校の中で杉一小的に古い校舎となっています。また、体育館も昭和41年(築53年)の建設で、老朽化も進んでいることから、北校舎とともに改築による施設更新を図ります。
- 一方、東側の特教・プール棟は、昭和53年建設(築40年)の耐震建物であり、改築コストを削減するため、改修による長寿命化を図ったうえで存置することも考えられます。
- 杉並第二小学校敷地の南東側には、昭和53年建設(築40年)された成田西災害備蓄倉庫が隣接しています。

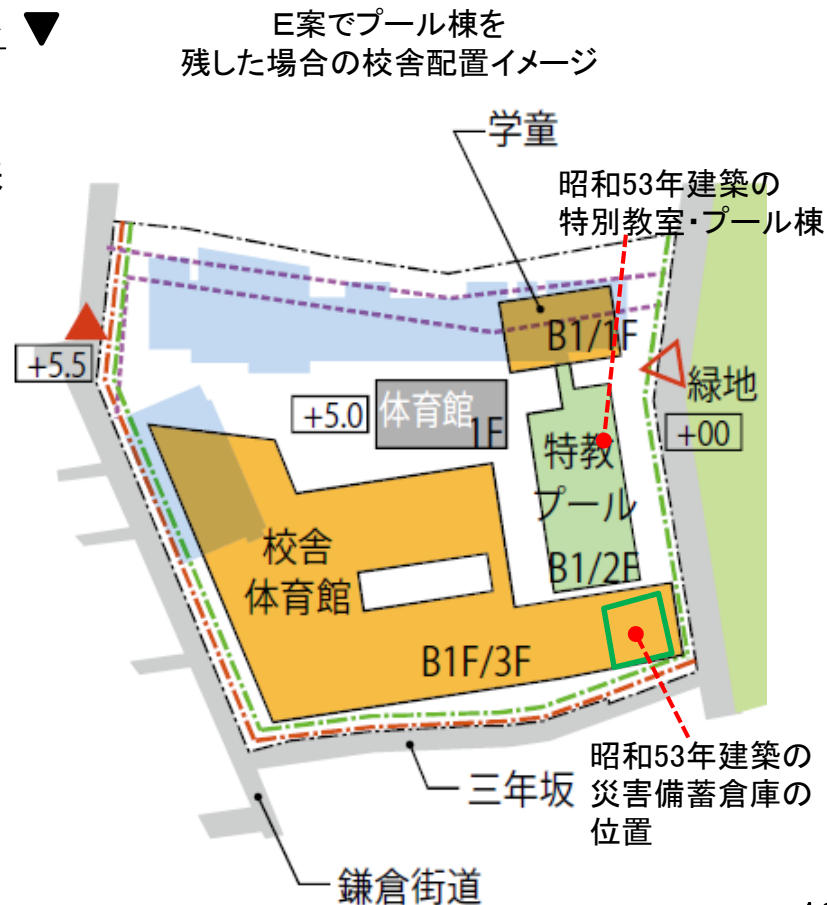
### <特教・プール棟と災害備蓄倉庫の残置についての検討> ▼

●容積率80%が上限であることや西側及び南側道路を拡幅することにより、敷地が後退すること、高低差もある敷地で効率的な施設配置が難しくなる結果、全面改築に比べて校庭面積が狭くなる等の影響が生じます。

●特教・プール棟を存置する場合、将来的には他の改築棟より先に耐用年数に達し改築が必要となりますが、その際は、敷地東側にある擁壁等を再度工事しなければならず、二重投資となること、工事スペースの確保の問題に加え、工事期間中の小学校の教育環境への影響など、将来の改築時に大きな課題を残すこととなります。

●西側の鎌倉街道は幅員が狭く、交通量が多いため、工事中の児童の安全確保を図るため、主に東側道路から工事車両を搬入することが望ましいと考えます。

これらのことを総合的に判断し、特教・プール棟と災害備蓄倉庫を含め、全面改築により、施設整備を進めます。



# 【4】施設整備計画 (3)校舎配置パターン 比較検討表

<p>施設構成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>既存校舎</li> <li>仮設校舎</li> <li>新校舎</li> <li>主な出入口</li> <li>出入口</li> <li>+00 東側道路を起点とした 標高低差 (m)</li> </ul>	<p>校舎を南東側に、校庭を北西側に配置する案</p> <p>A'</p>	<p>2棟の校舎を北側に、校庭を南東側に配置する案</p> <p>C</p>	<p>校舎を西・南側に、校庭を北東側に配置する案</p> <p>D</p>
<p>校舎環境 (I、II、III)</p>	<p>普通教室を東・南に向け、中央に図書室を設けた施設構成。児童の見守りに必要な職員室、保健室等を校庭に面して計画。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>主出入口：緑地側 サブ出入口：鎌倉街道側</li> <li>教室の配置：東・南に向けた配置</li> <li>管理諸室の配置：校庭（西）に向けた配置</li> <li>地域開放のしやすさ：鎌倉街道側に体育館・学童・地域開放をまとめてゾーニング</li> </ul>	<p>南側校舎は教室・管理諸室を設け小学校機能を集約し北側校舎には学童・地域開放施設を設け明確なゾーニングを行った計画。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>主出入口：鎌倉街道側 サブ出入口：緑地側</li> <li>教室の配置：南に向けた配置</li> <li>管理諸室の配置：校庭（東）に向けた配置</li> <li>地域開放のしやすさ：北側に体育館・学童・地域開放をまとめてゾーニング</li> </ul>	<p>校庭と緑地に面した、開放的な教室配置と学童ゾーンを独立棟とし効率的な学校運営に配慮した計画。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>主出入口：鎌倉街道側 サブ出入口：緑地側</li> <li>教室の配置：東に向けた配置</li> <li>管理諸室の配置：校庭（東）に向けた配置</li> <li>地域開放のしやすさ：南東側に体育館・学童・地域開放を別棟にまとめてゾーニング</li> </ul>
<p>校庭環境 (I、II)</p>	<p>植栽除いた校庭面積約 3,400 m<sup>2</sup>*1</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>午前中は影になる範囲が多い。</li> <li>ピオトープと校庭が隣接し、緑地に面する。</li> </ul>	<p>植栽除いた校庭面積約 2,900 m<sup>2</sup>*1</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>影になる範囲が少ない。</li> <li>ピオトープと校庭が隣接する。</li> </ul>	<p>植栽除いた校庭面積約 3,150 m<sup>2</sup>*1</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>影になる範囲が多い。</li> <li>ピオトープと校庭が隣接する。</li> </ul>
<p>周辺環境との関わり(II)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>校舎から緑地までのアプローチがしやすい。</li> <li>緑地側からの主出入口となり登下校の安全性が向上する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>校庭と緑地が連続した空間となる。</li> <li>東西どちらからも校舎にアクセスしやすい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>校庭と緑地が連続した空間となる。</li> <li>鎌倉街道側が主出入口のため登下校時の安全性は A' 案に比べ低い。</li> </ul>
<p>近隣住宅への影響 (II)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>校舎による日影の影響：北側近隣への影響が大きく低減する。西側近隣への影響も現況よりも一部低減する。</li> <li>校庭からの音・ほこり：北・西側近隣に影響あり。</li> <li>プライバシーへの配慮：南側近隣への視線配慮が必要。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>校舎による日影の影響：北側近隣への影響が低減する。西側近隣への影響は現況に近い。</li> <li>校庭からの音・ほこり：南側近隣に影響あり。</li> <li>プライバシーへの配慮：北側・西側近隣への視線配慮が必要。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>校舎による日影の影響：北側近隣への影響が大きく低減する。西側近隣への影響は大きくなる。</li> <li>校庭からの音・ほこり：北側近隣に影響あり。</li> <li>プライバシーへの配慮：南・西側近隣への視線配慮が必要。</li> </ul>
<p>仮設工事環境 (I、II)</p>	<p>既存校舎を使用しながら新校舎・学童を建設</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>必要仮設校舎：図書室・学童室、防災倉庫等</li> <li>仮設期間が短く、児童への影響が小さい。</li> <li>仮設期間中、既存校舎出入口と建設工事エリアの離隔を確保できる。</li> </ul>	<p>既存校舎を使用しながら先に新校舎、後で体育館・学童・特教を建設</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>必要仮設校舎：図書室・学童室、体育館・防災倉庫、各教科特別教室等</li> <li>仮設期間が長く、児童への影響が大きい。</li> <li>既存校舎と仮設校舎の間で建設工事を行う為、児童の行き来に課題がある。</li> </ul>	<p>既存校舎を使用しながら新校舎・体育館・学童を建設</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>必要仮設校舎：図書室・学童室、体育館・防災倉庫等</li> <li>仮設期間が短く、児童への影響が小さい。</li> <li>仮設期間中、既存校舎出入口と建設工事エリアが近接している。</li> </ul>
<p>工事STEP</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>学童・図書室、防災倉庫等の仮設建物の建設</li> <li>プール棟解体</li> <li>新校舎建設・引越し</li> <li>既存校舎・体育館解体</li> <li>外構整備</li> </ol> <p>約 4年 7か月 ※2</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>学童・図書室、体育館・防災倉庫等の仮設建物の建設</li> <li>プール棟、既存体育館解体</li> <li>新校舎建設・引越し</li> <li>仮設の特別教室増築</li> <li>既存校舎解体、体育館/学童/特別教室建設</li> <li>外構整備</li> </ol> <p>約 5年 7か月 ※2</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>学童・図書室、体育館・防災倉庫等の仮設建物の建設</li> <li>プール棟、既存体育館解体</li> <li>新校舎・新体育館棟建設 引越し</li> <li>既存校舎解体</li> <li>外構整備</li> </ol> <p>約 4年 9か月 ※2</p>
<p>コスト</p>	<p>約 46 億 仮設建物が少なく、総コストが低い。 ※3</p>	<p>約 49 億 仮設建物が多く、工期も長い為、総コストが高い。 ※3</p>	<p>約 48 億 仮設建物は A' 案と同じだが、擁壁の工事費がかかる。 ※3</p>
<p>総評</p>	<p>⇒広めの校庭、吹抜による豊かな空間性や緑地との関わりのある校舎となるが、校庭に落ちる影が多いことが課題。工期が短くコストが低い。</p>	<p>⇒校庭に面する南向き教室で見晴らしがよく、地域利用の独立性が高い校舎となる。校庭が狭いことが課題。工期が長く、コストが高い。</p>	<p>⇒教室・管理諸室とも緑地向きで見晴らしがよいが、周辺環境との関わりは少ない校舎となる。校庭と近隣への影の影響が大きいことが課題。工期やコストは共に中間となる。</p>

( ) 内の数字はピジョンを示します。 ◎等の評価については、各案の相対評価です。

※1 新築時の緑化基準によって面積の変動の可能性がございます。 ※2 工期は計画等により、変わる可能性があります。 ※3 総工事費は、計画及び物価上昇等により変わる可能性があります。

## 【4】施設整備計画 (4)敷地活用・建築計画の基本的考え方②

### ＜改築検討懇談会での主な意見＞

- ◆A'案は校庭に落ちる日影等の課題があるものの、校庭は最も広い面積が確保できる。工事期間中も既存の北校舎や体育館が使用できること、工期が短く、コストも抑えられること、土地の自然条件や周辺とのつながりをよく考慮していることなどから、A'・C・D案の中で最も良案である。
- ◆C案は校舎と地域開放諸室の独立性が高い。校庭の日当たりがよい一方で、面積は最も狭い。工期が最も長く、工事期間中の学校運営では児童への負担が大きいのではないかと懸念されている。
- ◆D案は、周辺環境との関わりや近隣環境への影響に課題があるのではないかと懸念されている。

### ＜区の見解＞

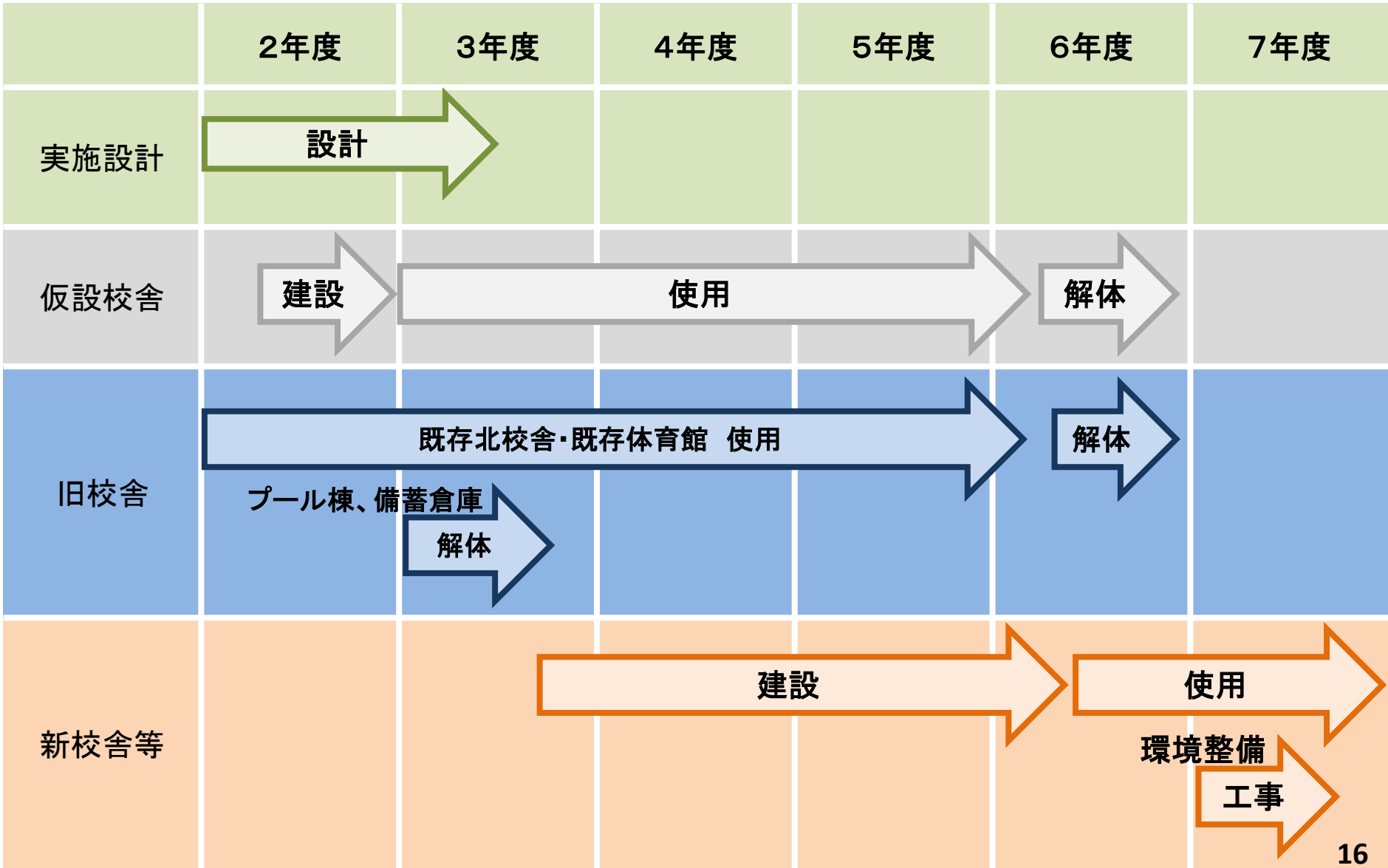
- A'案は、広めの校庭や緑地との関わりのある校舎となりますが、校庭に落ちる日影が課題です。工期が短く、コスト面でも有利です。
- C案は、校庭に面する南向きの教室で見晴らしがよく、地域開放諸室の独立性が高い校舎となります。校庭が狭いことが課題です。また、工期が最も長いことや、工事期間中、既存校舎と仮設校舎との行き来に長い距離を移動することになり、学校運営上課題が大きいです。
- D案は、教室や管理諸室が緑地向きで見晴らしがよいものの、周辺環境との関わりが少ない校舎となります。校庭と近隣への影の影響が大きいことや鎌倉街道側が主な昇降口となり、登下校時の安全性が相対的に低いことが課題です。

**懇談会との意見交換を踏まえ、校庭が広く取れること、工期が短く、工事中の児童への影響が少ないこと、周辺住環境への影響、整備コスト等、総合的に優れていることから、校舎を南東側、校庭を北西側に配置するA'案を目指すべき案とします。**

**今後は、懇談会でのご意見等も踏まえ、設計や必要な手続き等を進め、杉並第二小学校の教育環境の向上に取り組みます。**

# 【4】施設整備計画 (5) 想定整備スケジュール(予定)

※ 今後のスケジュールは、必要な手続きや工法・工程等によって変わる可能性があります。





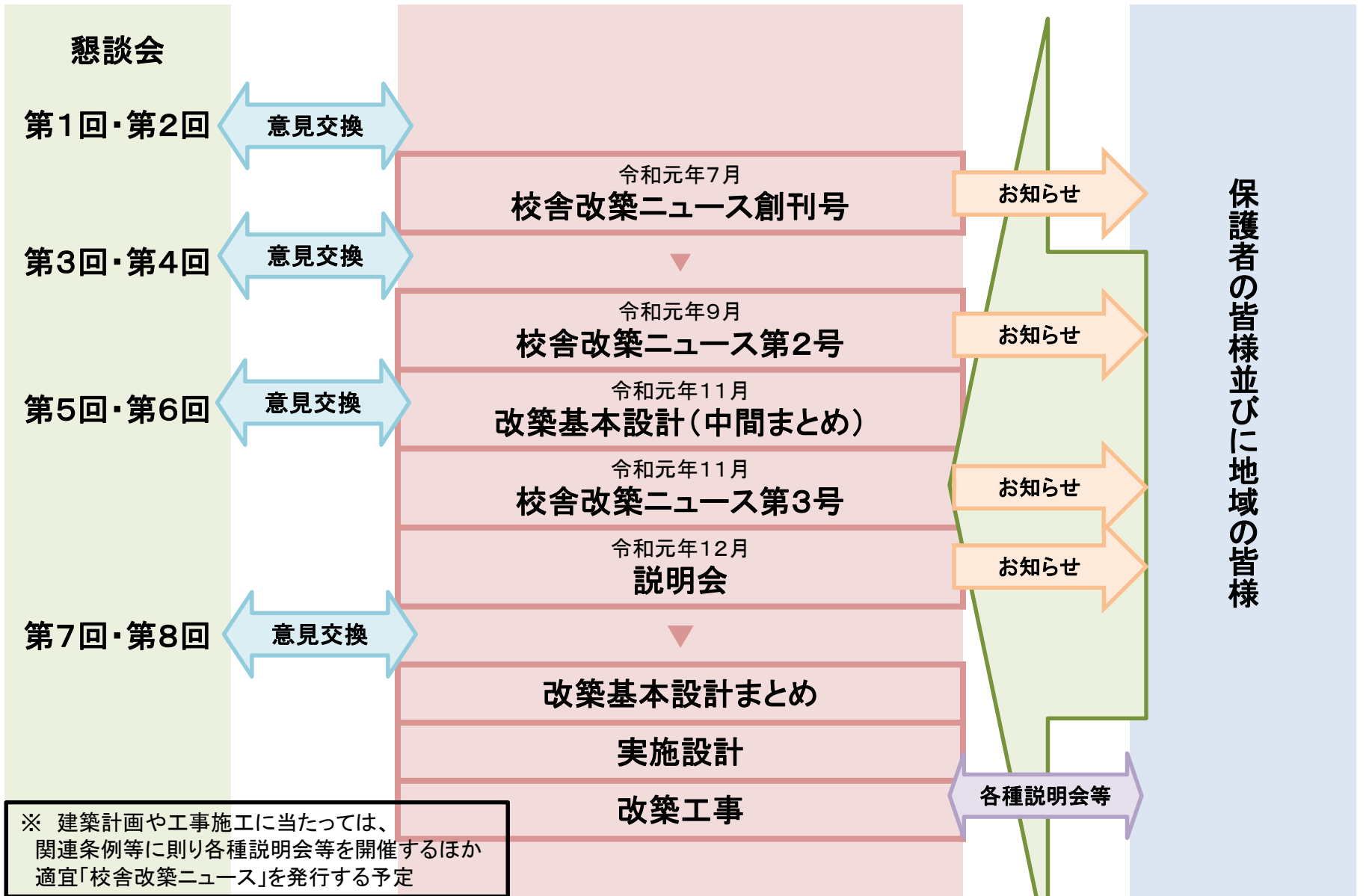
# 【5】検討経過及び今後の進め方 (1)校舎改築検討懇談会での検討経過

	日時・場所	主な内容
第1回	平成31年4月26日(金) 午前10時～12時 @杉並第二小学校 第二音楽室	○杉並第二小学校の概要について
第2回	令和元年5月30日(木) 午後1時30分～5時 @事例視察	○施設見学(杉並区立方南小学校) ○施設見学(杉並区立桃井第二小学校)
第3回	令和元年7月4日(木) 午前10時～12時 @杉並第二小学校 第二音楽室	○改築基本方針(目標・コンセプト等)の検討 ○計画地の概要について
第4回	令和元年7月30日(火) 午前10時～12時 @杉並第二小学校 第二音楽室	○改築基本方針(目標・コンセプト等)の検討 ○校舎配置の検討
第5回	令和元年9月26日(木) 午後3時～5時 @杉並第二小学校 家庭科室	○改築基本方針(案)、校舎配置(案)、平面計画(案)について
第6回	令和元年11月7日(木) 午後3時～5時 @杉並第二小学校 家庭科室	○改築基本設計中間まとめ(案) ○平面計画(案)について

## ～～校舎改築検討懇談会委員(順不同・敬略称)～～

団体名等	氏名	団体名等	氏名	団体名等	氏名
東一会	濱田 洋太郎	学校運営協議会	広松 猛	PTA	山下 雅美
成一自治会	北川 雅幸	学校支援本部	早坂 寿	杉二学童クラブ	石川 森生
成二町会	石原 政義	学校支援本部	小林 千里	芝浦工業大学 建築学部教授	桑田 仁
成三町会	大和田 劭	同窓会	岩田 和保	前桃井第二 小学校長	邊見 公子
西田町会	堤 一男	お父さんの会	渡辺 剛弘	杉並第二小学校長	佐野 篤
学校運営協議会	陣内 秀信	PTA	平戸 和美	杉並第二小学校 副校長	小瀧 隆雄

# 【5】検討経過及び今後の進め方 (2) 今後の進め方(予定)



※ 建築計画や工事施工に当たっては、関連条例等に則り各種説明会等を開催するほか適宜「校舎改築ニュース」を発行する予定